

## 令和4年度 第1回 よこすか地域支え合い協議会 会議録

開催日時：令和5年（2023年）3月1日（水） 10時～11時45分

開催場所：横須賀市役所本庁舎正庁

出席者：【構成員】松尾 健一、森 弘樹、沼崎 真奈美、小林 二三代、九鬼 貴紀、  
石渡 哲也、磯崎 順子、上田 滋、加藤 春樹、佐野 美智子  
鈴木 敬、高橋 直人、椿 雄一、普川 嘉子（敬称略、順不同）

【事務局】福祉総務課 白石 律史、中山 ちひろ、小松原 優斗、清家 悠里

【傍聴者】3名

### 1. 開会

座長の司会により開会した。

### 2. 傍聴者及び配布資料の確認

傍聴者の確認を行った後、配布資料を確認した。

### 3. 議事

#### （1）地域支え合い協議会の目的と役割

コロナウイルス感染症の流行により停滞していた地域活動について、再開の動きが各地で見られるようになってきた。コロナウイルス感染症流行以前とは高齢者を巡る状況も異なる中で、改めて地域支え合い協議会の目的と役割について考えるため、資料2と資料3について、事務局より説明した。

#### 【各地域支え合い協議会（第二層）の立ち上げと活動状況について】

- ・初期に立ち上がった協議体については、元々地域の関係者同士のまとまりが強く、協議体の立ち上げに向けて主体的に進めていただいた結果、立ち上がった。
- ・ただし、市一律でそのやり方でうまくいく訳ではなく、地区の特性にあったやり方が必要である。
- ・地域がバラバラの中で協議体だけ作ればいいでは上手くいかない。協議体という名前に振り回されるのではなく、まずは地域で同じ方向を向いていくための土壌づくりが重要。地域の様々な人達が交わる場を作っていくことができれば、自然と協議体はできていく。
- ・お互いの情報交換をすることで気持ちが盛り上がる場所から始まる。まずはお互いを知ることが大事である。
- ・活動を盛り上げていくにはトリガーとなる人が必要。そういった人をどう引き出していくかが課題である。
- ・新たな場を作るというだけでなく、既存の場をつなぐという視点も大事である。

#### 【よこすか地域支え合い協議会（第一層）の役割について】

- ・地域で想いをもった人たちの後押しやヒントになることを話し合う場であるとよい。
  - ・自分たちが知っていると思っている情報も、意外に地域に届いていないと感ずることがある。
- 第一層と第二層がお互い情報共有できるようにしていきたい。
- ・小さな地域単位で自発的に行う活動が盛り上がるにはどうしたらよいかについて焦点を置いてもよいと感ずた。
  - ・この場にいる様々な組織の方がお互いの活動内容を知って、協力できる場をこの場で作ってきたい。皆、目指しているところは同じ。情報交換が大切だということに改めて感ずた。
  - ・この場を一般の方々にも広く出でいただくことも重要と考える。

#### 【その他】

- ・行政は組織として縦割りの実行となってしまうが、それでは地域に伝わりづらい。行政にも横ぐしを通ず活動が求められている。

#### （2）各地域支え合い協議会（第二層）に向けた応援メッセージについて

事務局より、議事（1）の意見感想を第二層へのメッセージとしてとりまとめ、後日構成員へ確認した上で第二層へ伝えることを提案。構成員の了承を得た。

#### 4. 閉会

令和5年度の開催日程について、年2回（9月、3月を予定）とした。

今年度が構成員任期の最終年となるため、次期構成員の選出について依頼をし、閉会した。

※この議事録は委員等の発言の要点筆記である。